

生きる意味のわからなさを考えながら生きること

議論で個性豊かなファンタジー作品を数多く擁し、昨秋、産声をあげた「別冊少年マガジン」。その巻頭を飾ったのが本作。連載初回なれど、単なる状況説明や人物紹介に留まらず、きつちり笑わせて泣かせる構成はさすが。物語は母親がわが子を川に捨てる衝撃的なシーンから始まる。そんな赤い坊を捨て育てるのは、動物しかいない「どうぶつの国」に暮らすタヌキのモノコだ。両親を山猫に襲われ、一

個性豊かなファンタジー作品を数多く擁し、昨秋、産声をあげた「別冊少年マガジン」。その巻頭を飾つたのが本作。連載初回なれど、単なる状況説明や人物紹介に留まらず、きっちり笑わせて泣かせる構成はさすが。

物語は母親がわが子を川に捨てる衝撃的なシーンから始まる。そんな赤ん坊を捨い育てるのは、動物しかいない「どうぶつの国」に暮らすタヌキのモノコだ。両親を山猫に襲われ、一

匹ばつちで養うすモノは、赤ん坊のために決死の覚悟で牛の乳を取りに行き、タヌキの村では赤ん坊を助けたりスクランプを組んで赤ん坊を温める。ここにあるように妊娠感のない隣にシーハが全編にちりばめられてゐる。

タロウサヒシウ名のこの赤ん坊も、ただ守られるだけの存在ではない。どんな動物にも会話ができる特殊能力で他者と意図の疎通を図り、少しずつ周囲の意

■ 民間の圖 一

雷句 誠〈作〉



「本気で生きること」描く

ゼロ年代の 50冊

経済、金融・投資の分野で、
「他人の言説をうのみにして受け入れている先入観をひきつひき洗濯する」が本書の目的である。

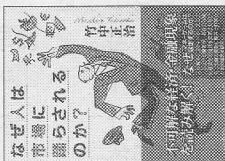
マスメディアにあふれている「わかりやすい物語」に捕らわれないよう著者は注意を喚起している。金融危機の構造、バブル防止策、住宅投資、政府債務、アメリカ経済懐論などに関する多くの「通説」が著者にバサッ

と斬られており、痛快である。

読者の理解を助けるために、し
やれた逸話も多々挿入されてい
る。それらも本書の魅力だ。世
界一流のバイオリン奏者が地下
鉄道などで演奏した時の通行人の
反応、「新版花見酒の経済論」
で読み解く資源バブル、沈みゆ
くタクシードライバーで乗客を鎮める
のに有効な国民別のセリフ等々
である。

タイタニックのショーケーが示

ビジネス



同調性の呪縛に弱い日本人

竹中正治著

喫しているが、日本人は「みなさん、そつとれてこますよ」という同調性を求める呪縛に弱い。市場に踊らされたように、その呪縛を解くことの重要性を著者は力説している。

日本の深刻な財政問題に対しては、景気対策とセットにならがら、消費税を5年間毎年1%引き上げる案が提唱されている。鳩山首相は、日本の未来を救うため、勇を鼓して『消費税4年間引き上げ凍結』の公約を翻し、景気対策と同時に増税を含む財政重建に取りかかって欲しい。正論の主張だと思われる。

如券出

(エコ)ミスト)

識を変えていくのだ。その影響は、一見 獣猛な黒い山猫・クロガギにも及ぶ。そう、取るに足りない存在でも、世界を変えてゆくことは出来るのだ。

野生动物の弱肉強食の世界を通して、「本気で生きる」という子育てを描いた本作。重いテーマだが、着ぐるみのようなモノコの造形や、人間界にある水筒やおんなつをバラツク要素が、作品全体にポップな印象を与えている。何かを守るために、自身も成長していく主人公と周囲の動物たち。本作の根底には、普遍的な優しさと希望がある。

山西林生

(ライタ)